

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		こどもデイサービスわこう皆生通り			公表日	2025年 4月 15日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		○	机の位置やパーテーションを作成、配置する事でコーナーを作っている。	都度工夫を行っており今後も状況に合わせて改善していきたい。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		基準人員を満たしている。	配置基準プラス一人を目指しているが確保が難しい日もある。個別の療育が必要な児童もいる為状況に合わせた配置が出来るよう工夫
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		○	生活空間が狭い為視覚的に児童の状況は把握しやすい。	パーテーションやテーブルを利用して過ごしやすい環境作りを目指しているが構造化の改善は今後も改善していきたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・日々の掃除や消毒を行っている。 ・アットホームな環境の為慣れている児童には過ごしやすい環境になっている。	・活動に合わせて室内の環境構成を変えて取り組んでいる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		学習室以外にもパーテーションを使用して仕切りを作る事の出来る環境にしている。	完全に個室となるクールダウン室の確保は出来ていない。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		・自己評価、面接を行っている。 ・負担の偏りを感じる事もある為業務分配を行った。 ・一か月に一度の会議では思った事を話し合う機会もある為振り返りが出来る。	PDCAを見える化し、意識して取り組む事が出来るようにしていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・出来るだけ早急に対応し、安心して利用できるよう整える。 ・今年度からICTの中でアンケートの実施を行う事が出来るようにしている。	ICTを使ったアンケート方法をより分かりやすく説明していく必要やご家庭に向けてレクチャーしていく必要がある。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・月に一回の運営会議で意見を出し合える。 ・風通しの良い職場だと感じる。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		・外部評価はないが、社内監査を設け業務改善を図っている。 ・監査等で指摘された事は職員間で定期的に伝達し改善している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・毎月の社内研修と外部研修会に参加する。 ・年に一度受けているが、少ないと感じる時もある。	開催される研修への参加を多く取り入れていく。
適切	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・ICTを通して保護者様との連携に努めている。 ・支援プログラム公表済み。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		・ICT導入 ・職員間で情報を出し合い、ニーズや課題を精査している。	・児童発達支援管理責任者の要請に応じて職員も意見を伝えあっている。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		支援会議を開き意見を出し合い擦り合わせている。	今後も支援会議だけでなく普段の業務でも会議を設け児童の状況把握に努めていく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個々に合わせた支援と集団活動の時間を取り入れて療育を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		ICTを活用して日々の記録を個別に行い、標準化されたフォーマットへの記載に活用して作成している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・行事立案。 ・放課後の集団活動立案。 ・日々の活動として集団遊びをしている。	

な 支 援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		日替わりで職員が担当し、運動や感覚を使った遊びの提供を行っている。	今後も児童の発達に合わせた活動を取り入れていく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・状況に応じて一对一の取り組みに対応している。 ・一人で遊べる玩具から集団で遊ぶボードゲームやカードゲーム等を用意している。職員も仲立ちしている。	発達に合わせた支援物の提供。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・当日の流れについて打ち合わせを行う。 ・行事内容打ち合わせを行っている。 ・午後と夕方に申し送りをしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・毎日の申し送り。 ・次の日朝に連絡事項周知。 ・活動の反省や意見交換をしている	行事や活動の反省を全体で行う機会を増やしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・個人記録、業務日誌にて成長面、課題面を記録、周知。 ・活動の反省や個別の記録をつけている。他スタッフが見ても分かるよう記載している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		担当を定期的に変更して偏りのないようにしている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		報酬改定や5領域に基づいた支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参加している。	OJTの会議参加、経験を増やしていく。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・必要に応じて医療との連系た教育機関、相談支援員との連携を行っている。 ・契約に向けた会議で子育て支援センターとの連携も行う機会があった。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要に応じて下校時刻の確認を学校や保護者と行っている。	下校時刻の把握を細かく確認していく。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		・事前に保育所訪問をしている。 ・保育所訪問を行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		移行支援会議、相談員との連携を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		あいサポート研修への参加をしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	・他事業所との交流。 ・外部交流は現在の所ない。	系列事業所との交流を行っている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	参加なし。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ICT導入によって個別に連絡を取る事が密になってきた。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・要請があれば実施。 ・必要に応じてご家族からの相談を受けている。	開催する為の情報や機関との連携が必要。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		ご家族からの意向が主になるが、学校を含めた担当者会議に本人が参加する事で本人の意向を聞く機会が出来た。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・希望に応じて話し合いの場を作っている。 ・必要に応じて事業所で行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	・現在話し合いを進めている所。 ・2025年度に実現したいと考えている。	2025年度に実現を目指している。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・全体で周知、対応 ・書面作成、ご自宅訪問等対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・事業所新聞、HPで公開。 ・毎月おたよりを作成している。今後更に見やすい工夫をしていく。	学校への配布も行い事業所での様子を知ってもらう。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報には鍵のかける事が出来る場所や金庫で保管。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		視覚支援や一対一で関わる機会を作っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	・案内はするが、参加はない。 ・不審者対策の観点から関係者への案内にする事もある。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		自然災害が多くなりつつある中で、マニュアルの周知、徹底はしているが、ご家族への周知や訓練は今以上に必要だと感じている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP感染症、自然災害の計画作成を行っている。	今後更に細かい内容を記載していく必要がある。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		事前に把握している内容や定期受診後の様子を確認し、周知に努めている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・保護者とも連携を図り配慮している。 ・アレルギーについての研修も行っていきたい。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画の策定は行っているが、施設内の設備確認や修繕など不十分な点もある為改善していく。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・災害時の避難場所をICTで常に表示している。 ・室内の細部まで安全確保に努めていき	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・毎月ヒヤリハットを使い話しを行っている。 ・気づいた時には情報共有し、作成してい	細かな所までヒヤリハットを出し合い環境の改善や再発防止に努めていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待、身体拘束研修を行っている。	年に数回ではなく定期的な開催を行い周知を図る。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		契約時に説明しているが該当する児童なし。	